



教育現場でのデジタル技術の活用状況や課題について意見を交わした審議会

デジタル技術 どう活用

県産業教育
審議会 「企業側の課題把握を」

産業教育の充実に向けて意 足農業高校で開かれた。県内
見を交わす本年度の県産業教 企業の代表者や教育関係者ら
育審議会が10日、秋田市の金 委員13人が出席。教育現場で

導入が進むデジタル技術の活用や、課題について話し合った。

委員からは、教育現場で最新のデジタル技術が学べる一方で、急速な発展に対応するのが難しい県内企業もあり、若者の県外流出や早期の離職を懸念する声が上がった。「最先端の機器を導入して終わりではなく、企業側の課題を把握し、どう活用するのかを重視してほしい」という意見もあった。

このほか、委員が県内高校での農業教育の実例などを紹介した。県内の農業法人から「高校生にスマート農業やデ

ータ活用に関する基礎的な知識を習得させてほしい」といった要望があるとし「生産性向上のためにも今後の農業教育でデジタル技術は欠かせない」と話した。

審議に先立ち、委員は測量用ドローンの操縦を学ぶ授業などを見学。生徒が開発に携わったスープやパンケーキといったオリジナル商品についての説明も受けた。

審議会は委員15人で構成。年に1度会合を開き、審議内容は県や県教育委員会が政策立案の参考にしている。

(佐藤悠大)